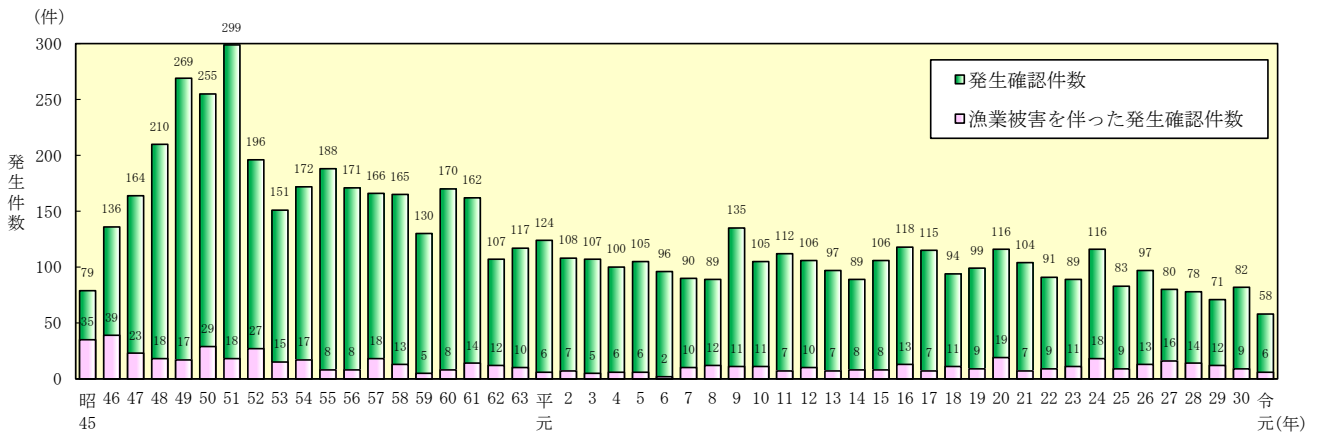


5 赤潮の発生状況

瀬戸内海における赤潮の発生状況を見ると、昭和 51 年(299 件)まで年々増加の傾向にあったが、それ以降は減少している。しかし、現在なお毎年 100 件前後の赤潮の発生が確認されており、令和元年には 58 件の発生が確認された。赤潮の発生実件数と赤潮発生海域を図 5-1、図 5-2 に示す。昭和 35 年から平成 27 年までの赤潮発生海域を図 5-4 に示す。

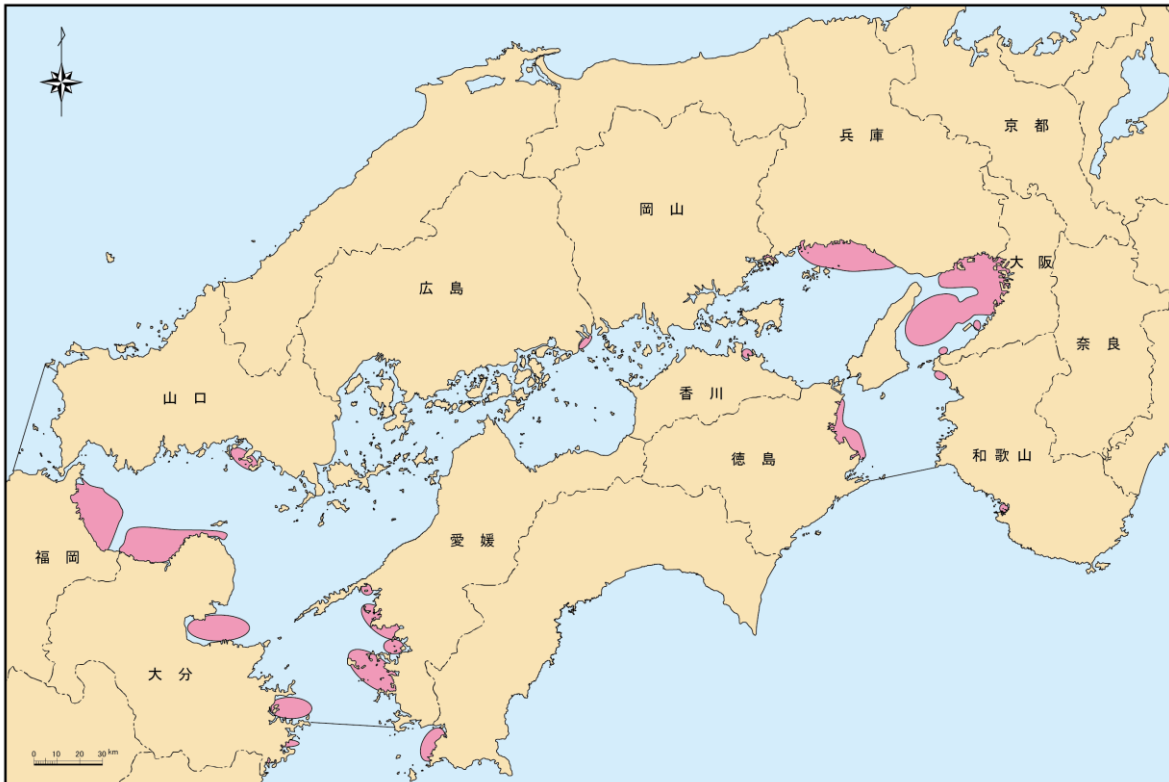
赤潮の発生に伴う漁業被害について、播磨灘では昭和 47 年 7 月(養殖ハマチ 1,400 万尾へい死、被害金額 71 億円)、52 年 8 月(養殖ハマチ 330 万尾へい死、被害金額 30 億円)、53 年 7 月(養殖ハマチ 280 万尾へい死、被害金額 33 億円)、57 年 8 月(養殖ハマチ 38 万尾へい死、被害金額 8 億円)及び 62 年 8 月(養殖ハマチ 135 万尾へい死、被害金額 25 億円)に、安芸灘を中心とした海域では平成 10 年 8 月(養殖マガキ 8,518 万枚へい死、被害金額 39 億円)に大規模な漁業被害が発生した。



注) 実件数は、複数の灘及び月にまたがるものを 1 件として計上した値である。

出典:「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)

図 5-1 赤潮の発生実件数



出典:「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所、令和 2 年 6 月)

図 5-2 赤潮発生海域(令和元年)